

音楽科学習指導案

日時 令和4年12月20日

生徒 札幌市立北辰中学校 2年1組

指導者 教諭 渡辺 景子

1. 題材 ベートーヴェンの交響曲を解剖しよう
「交響曲第5番ハ短調」(ベートーヴェン)

2. 内容のまとめ
〔第2学年及び第3学年〕「B鑑賞」(1)鑑賞 及び 〔共通事項〕(1)

3. 題材の目標

「交響曲第5番ハ短調」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴き、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組み、音楽文化に親しもうとする態度を養う。

4. 題材について

本題材は、タブレット型端末による旋律創作「動機を活かして旋律をつくろう」と関連させて実施している。具体的には、おかしの名前から4分の4拍子・1小節の動機を創作し、それを8小節分反復(コピー&ペースト)したところから変化や工夫を加えて8小節の単旋律を構成するものである。生徒はこの活動を通して、リズムの拡大縮小、音高の変化(平行移動、逆行など)に加え、強弱記号・アーティキュレーション記号(スラー、スタッカート、テヌート、アクセント)の変化についてたくさんのアイデアを盛り込む。創作の経験を活かして「交響曲第5番ハ短調」を読み解くことにより、作曲者の思考に寄り添うことができたり、楽曲のよさや美しさに気づくことができたりすると考える。また、動機を変化させるアイデアを比較することにより、自分や中間の創作したものを振り返り、よさを発見したりすることにもつながると考える。

鑑賞教材には、ベートーヴェン作曲「交響曲第5番ハ短調」より第1・4楽章を用いる。第1楽章では動機のリズムが変化することなく最後まで用いられており、形式的な統一感や美しさを味わうには適した教材である。また、二つの主題の対象性と展開部における関わり合い、管弦楽による豊かな表現、第4楽章に向けたテーマ性などを扱うことで、楽曲の理解を深め、音楽のよさや美しさを味わって聞くことへつなげたい。

5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知】「交響曲第5番ハ短調」の曲想と音楽の構造との関わりを理解している。	【思】「交響曲第5番ハ短調」のリズム、テクスチャ、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	【態】「交響曲第5番ハ短調」の運命の動機とその変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

6. 指導と評価の計画(3.5 時間扱い)

時	○学習内容 *生徒の思考、発言等	知・技	思	態
1 本 時	<p>○「おかしな CM」の選抜作品を、全体で交流する。</p> <p>○「運命の動機」について知る。</p> <p>ベートーヴェンは、動機をどのように変化させたのだろうか</p> <p>○「運命の動機」が第1楽章の冒頭で何回現れたか、どのように現れたかを確認する。</p> <p>○楽譜を見ながら提示部を聴く。</p> <p>○鑑賞シートを記入する。</p>	<p>知 楽譜、 鑑賞シート</p>		
2	<p>○前時の学習内容を振り返る。(鑑賞シートと CD を用いる)</p> <p>* 動機のリズムを変化させずに、音高、音色、重なりで変化を出していた。</p> <p>* ずっと暗いのではなく、明るい場面があり、そこにも動機が残っていた。</p> <p>●「暗から明へ、苦悩から勝利へ」というテーマ性をもって(フィナーレに向かって)作られたことを知る。</p> <p>●作曲家ベートーヴェンについて知る。</p> <p>「ソナタ形式」を理解して、第一楽章を聴こう</p> <p>○2つの主題とソナタ形式について理解する。</p> <p>○第1楽章を通して視聴し、気づいたことを簡単に交流する。</p> <p>○鑑賞シートを記入する</p>	<p>知 ワークシート、 鑑賞シート</p>	<p>思 鑑賞シート</p>	<p>態 観察、 鑑賞シート</p>
3	<p>○前時の学習内容を振り返る。(鑑賞シートを用いる)</p> <p>* 再現部は提示部そのままではなく、変化していて飽きずに聴けた。</p> <p>* 最後は終わりそうで終わらなかった。また、暗いままだった。</p> <p>○提示部の楽譜を見ながら再現部を視聴し、気づきについて確かめる。</p> <p>* 第1主題にソロが挟まれている、一瞬時が止まった感じがする。</p> <p>* 第2主題の調が変わっているけれど、自然につながっていてすごい。</p> <p>ベートーヴェンは、他の楽章でどのように動機を使いながら、4楽章を構成したのだろうか</p> <p>○2～4楽章でどのように動機が登場しているかを確認する。</p> <p>※教科書に示されている楽譜を記譜アプリで打ち込むなどして聴く。</p> <p>○第4楽章の主題や形式を理解したのち、通して視聴する。</p> <p>○鑑賞シートを記入する。</p>			
4	<p>○鑑賞シートの交流をする。</p> <p>* 最後まで「運命の動機」が使われていた。</p> <p>* 第4楽章が盛り上がるように、第3楽章からつないだり第4楽章にしか使われない楽器があったりと、様々な仕掛けがされていた。</p>			

※「●」表示については、鑑賞シートの記述や、授業中の生徒の発言が出たタイミングで扱っています。(1時間目の途中で「ベートーヴェンって、耳聞こえなかったですよね?」「途中で天国みたいな雰囲気になった」のように出ることもあれば、2時間目の鑑賞シートの記述から3時間目の冒頭に扱うこともあります。)

※どの題材についても振り返りシートを活用し、次の時間の冒頭 10 分で着地するスタイルを常にとっているため、4時間目の冒頭までを指導案に記載し、3時間扱いとしています。

7. 本時について(本時 1/3)

(1) 本時の目標

「運命の動機」の音色、リズム、テクスチャの変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。

(2) 本時の展開

分	○学習内容・主な活動 *生徒の思考、発言等	◇評価・教師のかかわり
00	○前時まで取り組んでいた創作「おかしな CM」の選抜作品について、全体で交流する。(創作した生徒による解説、感想交流) *音を足していても動機の形が残っていてすごかった。 *スタッカートとテヌートが効果的に使われていた。	・投票数の多かった4名の作品を取り上げ、テレビに楽譜を表示し、発表の補佐をする。 ・「これから鑑賞する曲も、みんなと同じようなアイディアで作った」ことを伝える。
10	○「交響曲第5番ハ短調」の冒頭を聴き、「運命の動機」を確認する。 *扉をたたきすぎて壊れる *2回目は低くなっていた *追いかけていた ベートーヴェンは、動機をどのように変化させたのだろうか	・運命の動機を音で確認し、エピソードを伝える。
15	○「運命の動機」が何回現れたかを数える。また、なぜその違いが出るかを交流する。 *数える度に変わってしまう…重なっているからだ *12回…上向きを数えていないからだ *14回	・24小節目までを聞かせる。 ・全体で回数を確認したり、数名が前に出て数え方を比較したりしながら、なぜその違いが出るか、動機をどのように変化させているかを問う。
25	○教科書の総譜を用いて、1~24小節目に「運命の動機」が登場した部分を囲み、全体で確認する。また、楽譜を見て気づいたことを交流する。 *4つ目の音の長さや楽器も変わっている *最初の休符が入っているから追いかけることができる *音が上がっているのを数え忘れていた!	◇「運命の動機」とその変化に関心をもって活動に取り組んでいるか。 ・画面に楽譜を提示して、全体で確認する。 ・楽譜を見て気づいたことを交流する
35	○楽譜を見ながら提示部を聞く。 ○提示部を聞いて気づいたことや感じたことを、鑑賞シートに記入する。 ベートーヴェンは、動機のリズムを変化させずに、上向き・下向きに音高を変化させたり、楽器の組合せにより音色を変化させたり、動機の重ね方を変化させて旋律を作り出したりしていた。	・この先はどのように変化するかを予想してから聴かせる。 ◇「運命の動機」の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができたか。
50		

(3) 本時の評価

「運命の動機」の音色、リズム、テクスチャの変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができたかを、授業の取り組みの様子や鑑賞シートから見取る。